

世界の主要温室効果ガス濃度は過去最高値 ～WMO 温室効果ガス年報第6号の発表～

世界気象機関(WMO)と気象庁などが世界の大気中の温室効果ガス濃度を解析した結果が、11月24日に温室効果ガス年報第6号として発表されました。それによると、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の2009年の世界平均濃度は過去最高となりました。

気象庁は、世界気象機関(WMO)の温室効果ガス世界資料センター(World Data Centre for Greenhouse Gases: WDCGG)を運営しており、世界中で観測された温室効果ガスの観測データを収集・解析しています。今般、当庁および世界の温室効果ガス専門家の協力により、2009年12月までの世界の温室効果ガス観測データの解析が取りまとめられ、その結果が、WMOから11月24日に温室効果ガス年報(Greenhouse Gas Bulletin)第6号として発表されました。

今回発表された年報によると、大気中の主要な温室効果ガスである二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)及び一酸化二窒素(N₂O)の2009年における世界平均濃度は、過去最高値を記録したことが分かりました。このうち近年増加傾向が頭打ちになっていたメタンは、2007年以降3年連続で高い伸びとなりましたが、メタンが最近増加している原因は十分には分かっておらず、今後の見通しははっきりしないとしています。また、二酸化炭素も近年よりは増加量がわずかに小さいものの依然として増加が続いています。

本年報は、気候変動枠組条約第16回締約国会議(COP16)(11月29日～12月10日、メキシコ・カンクン)で配布される予定です。

今回発表された年報に掲載された解析結果の概要は別紙のとおりです。

本件に関する問い合わせ先：地球環境・海洋部 環境気象管理官付
全球大気監視調整官
電話 03-3212-8341(内線4112)
03-3287-3439(直通)

WMO 温室効果ガス年報に掲載された解析結果の概要

表1 世界の温室効果ガスの状況

	二酸化炭素 CO ₂ (ppm)	メタン CH ₄ (ppb)	一酸化二窒素 N ₂ O (ppb)
2009年平均濃度	386.8	1803	322.5
前年との差	1.6	5	0.6
これまでの年平均濃度最高値 (最高値を観測した年)	385.2 (2008年)	1798 (2008年)	321.9 (2008年)
最近10年間の平均年増加量	1.88	2.2	0.77
工業化以来の増加分の比率 (工業化以前の濃度)	38% (約280)	158% (約700)	19% (約270)

注: ppm: 体積比で百万分の一、ppb: 体積比で十億分の一

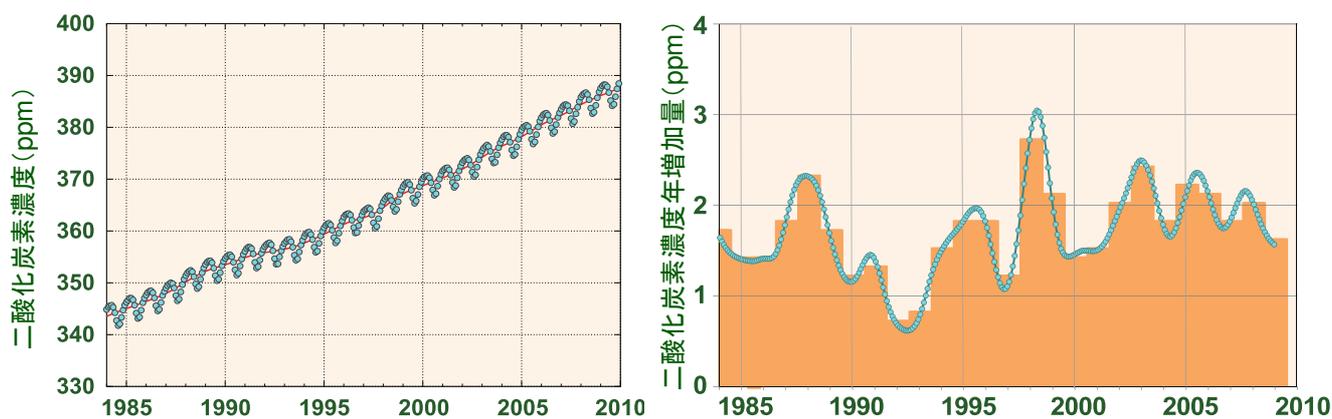


図1 二酸化炭素の世界平均濃度(左)とその年増加量の経年変化(右)

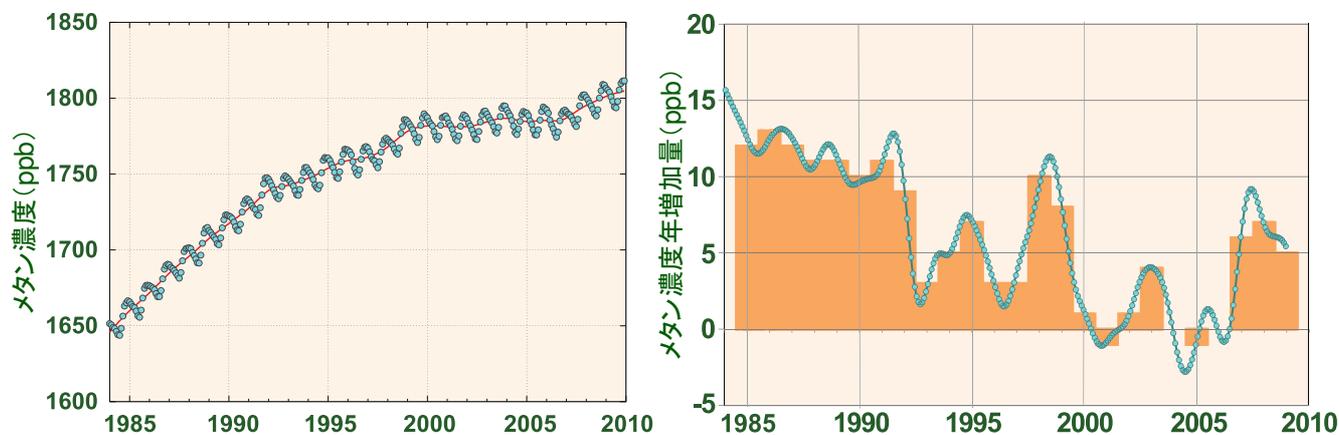


図2 メタンの世界平均濃度(左)とその年増加量の経年変化(右)